

大学生の自殺の状況

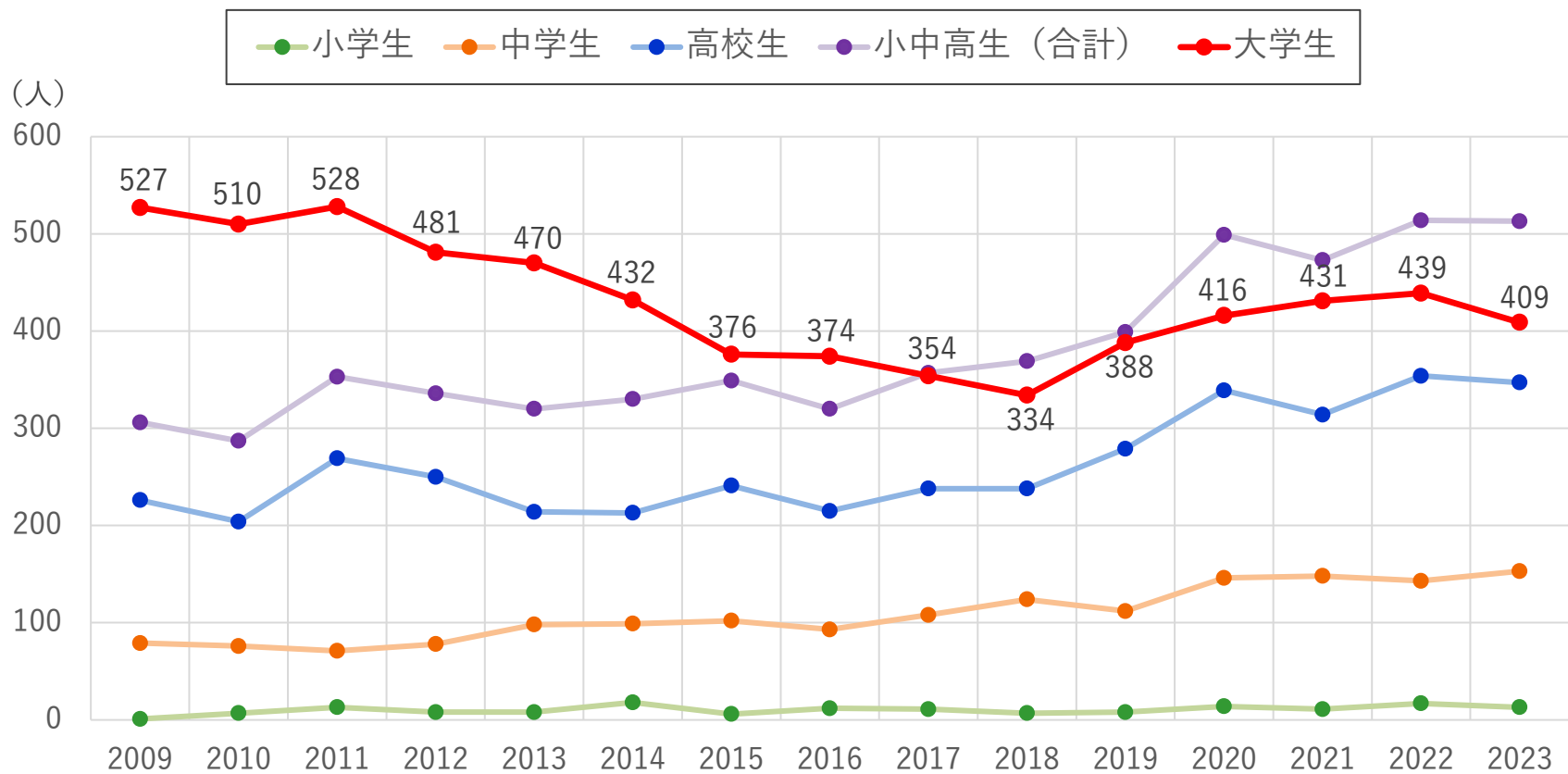
2025年3月

いのち支える自殺対策推進センター
Japan Suicide Countermeasures Promotion Center

はじめに

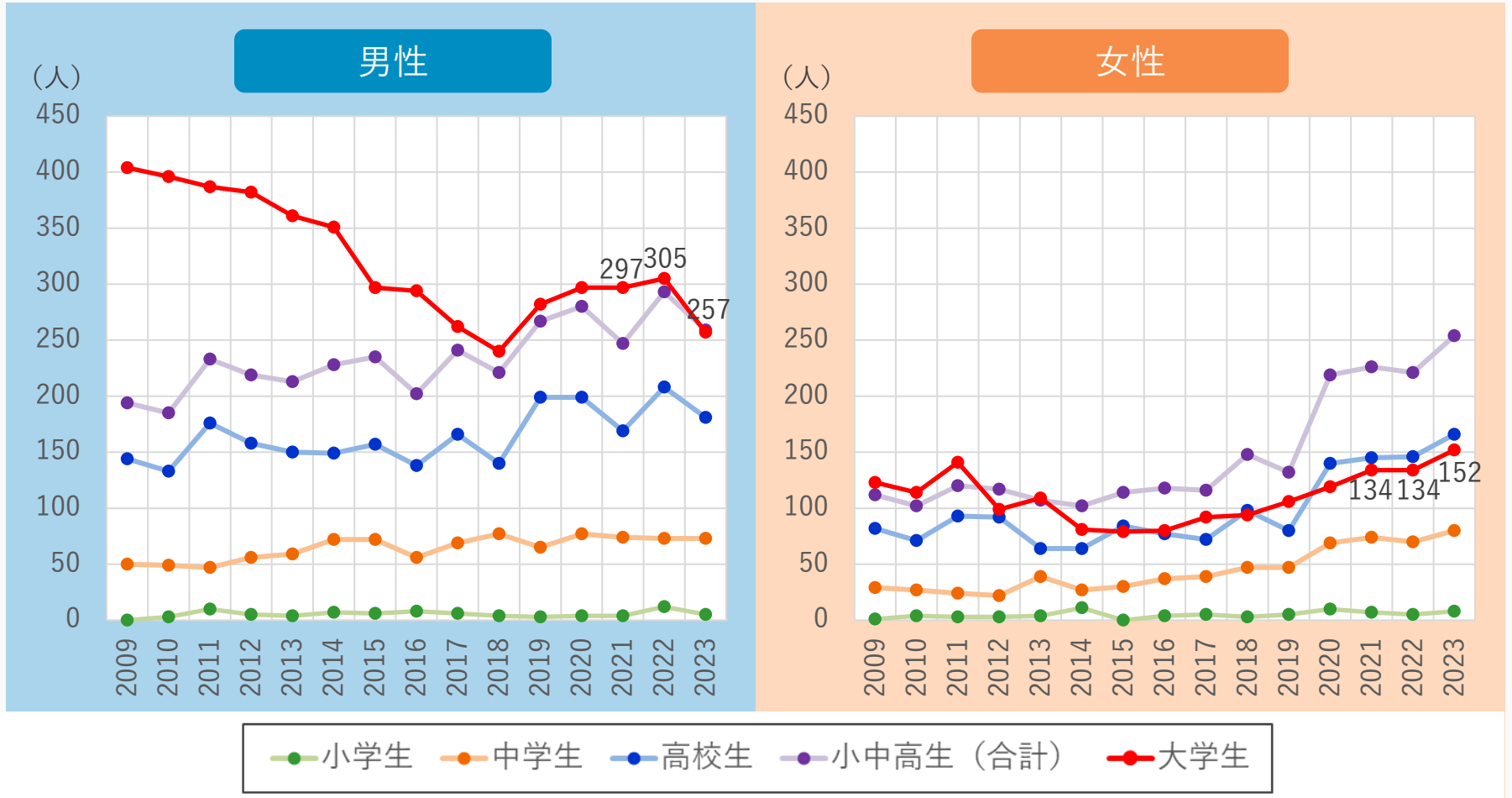
- 昨今こども（特に小中高生）の自殺が深刻な状況となっているが、大学生の自殺もまた同様に深刻な状況であり、その対策は喫緊の課題である。
- 有効な自殺対策を推進するうえで、対象となる集団の自殺の状況を正確に把握することが重要である。
- 本資料では、警察庁の自殺統計原票を用いた分析によって明らかとなった大学生の自殺の状況について報告する。
- 自殺統計原票は、各都道府県警察において、遺体の死因を自殺と判断した場合に案件ごとに作成され、作成された原票の情報は、警察庁において取りまとめられている。したがって、原票中の情報は警察の捜査・調査等の過程上知り得た範囲内のものであることに留意が必要である。
- 利用データ及びその期間は、平成21（2009）年から令和5（2023）年の警察庁の自殺統計原票である。令和4（2022）年1月に自殺統計原票が改正されたことに伴い、時系列推移以外の集計には、令和4年から令和5年までの2年間分のデータを用いている。

大学生及び小中高生の自殺者数の推移



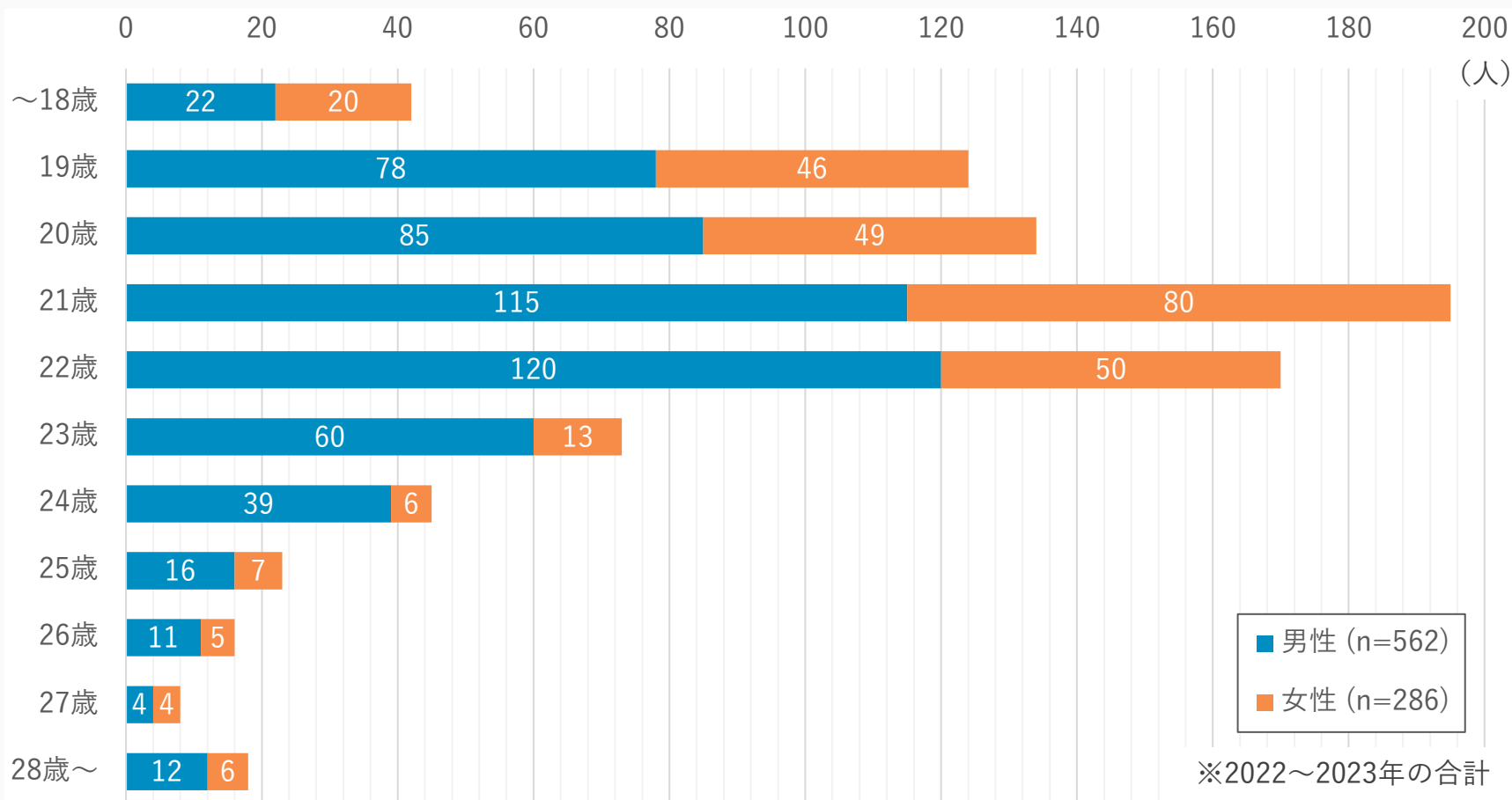
資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

大学生等の性別にみた自殺者数の推移



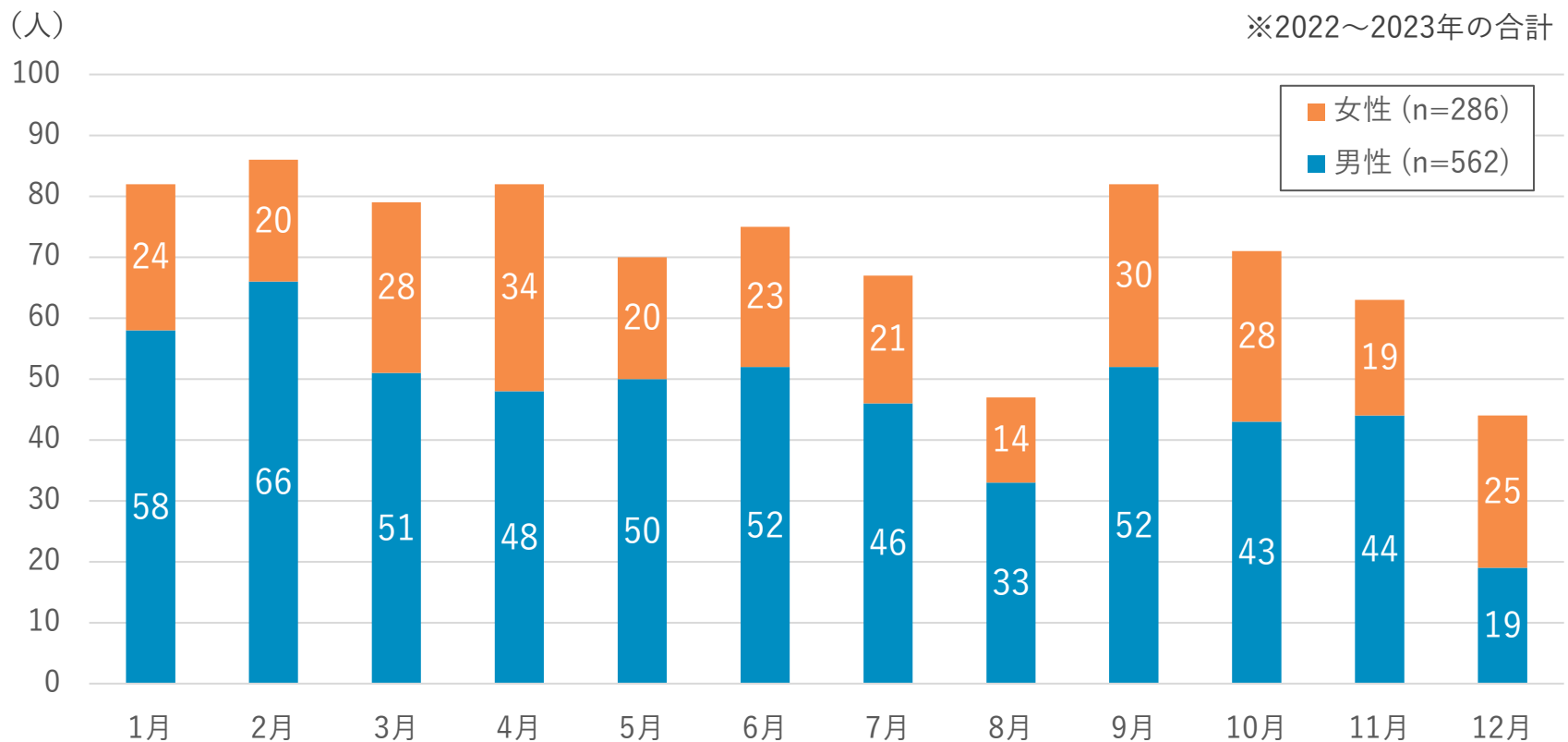
資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

大学生の年齢別・性別にみた自殺者数



資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

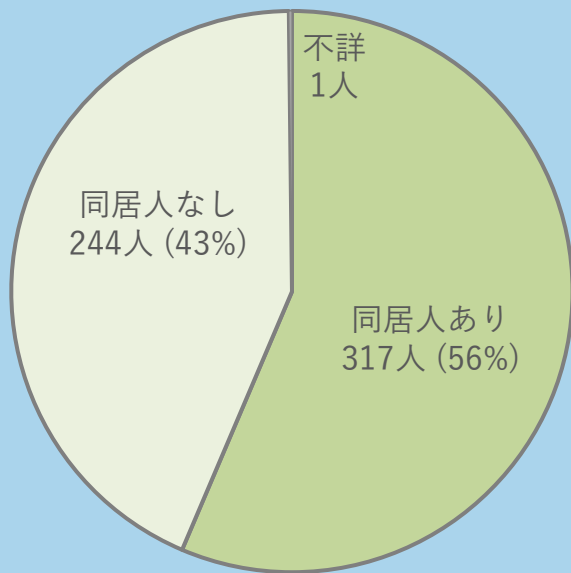
大学生の月別・性別にみた自殺者数



資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

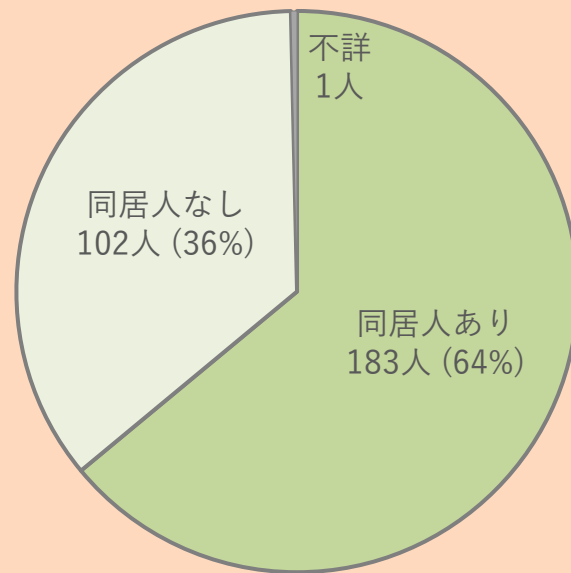
性別にみた同居人の有無の割合

男性



(n=562)

女性



(n=286)

■同居人あり

■同居人なし

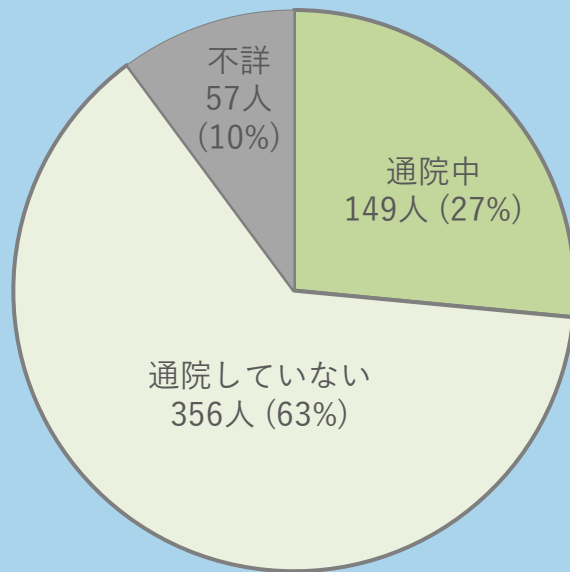
■不詳

※2022～2023年の合計

資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

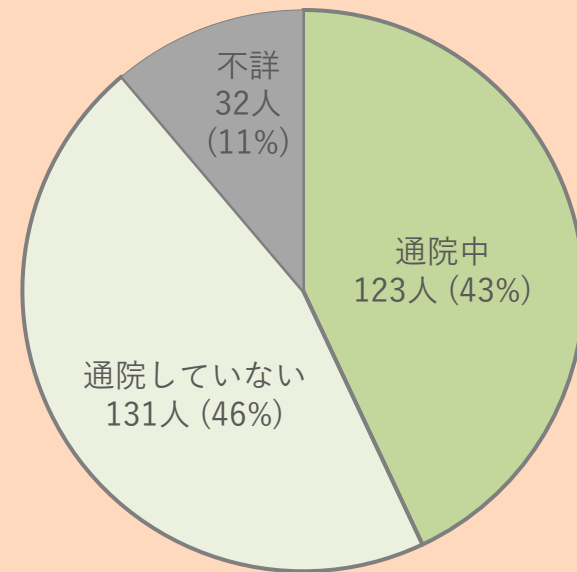
性別にみた精神科通院歴の有無の割合

男性



(n=562)

女性



(n=286)

■ 精神科・心療内科に通院中 □ 精神科・心療内科に通院していない ■ 不詳

※2022～2023年の合計

資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

性別にみた主な自殺の原因・動機

男性

	原因・動機（詳細項目）	該当率
1位	学業不振	23%
2位	進路に関する悩み（入試以外）	19%
3位	病気の悩み・影響（うつ病）	11%
4位	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	7%
5位	失恋	6%
5位	学校問題その他	6%
-	不詳	15%

女性

	原因・動機（詳細項目）	該当率
1位	病気の悩み・影響（うつ病）	21%
2位	進路に関する悩み（入試以外）	15%
3位	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	14%
4位	学業不振	12%
5位	失恋	7%
6位	学友との不和（いじめ以外）	6%
-	不詳	16%

※2022～2023年の合計

該当率は、（各原因・動機に該当すると記録された自殺者数）÷（対象となる自殺者数）×100 で算出した。

自殺統計原票には、自殺の原因・動機について、7つの大分類に分類される詳細項目があり、自殺者1人につき原因・動機を4つ計上可能としている（原因・動機が特定されないものは「不詳」とされる）。自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。このため、警察によって特定された「自殺の原因・動機」が、自殺者個々人の背景そのものであるとは限らない点に留意して解釈する必要がある。

資料：警察庁自殺統計原票データよりJSCP作成（自殺日に基づき集計）

まとめ

- 大学生の自殺者数は2011年以降減少傾向であったが、2019年に増加に転じ、近年も高止まりの状況が続き、年間400人以上が自殺により亡くなっている。
- 性別で見ると、特に女性の大学生の自殺者数の増加傾向が顕著である。
- 年齢別で見ると、21-22歳にピークが見られる。
- 月別では、春（2月前後）と9月に多い傾向がある。
- ひとり暮らしの者も多いが、同居人ありが半数強を占める。
- 全体の半数以上は、生前に精神科・心療内科に通院していない。
- （自殺統計原票における）自殺の原因・動機は、男性では「学業不振」「進路に関する悩み（入試以外）」が、女性では「病気の悩み・影響（うつ病）」「進路に関する悩み（入試以外）」が、上位となっている。
- 小中高生のみならず、大学生の自殺対策も緊急強化が必要である。



いのち
支える